

「光ブロードバンドの活用方策検討チーム」(第1回) 議事要旨

1 日 時：平成21年11月10日(火) 10:00～11:45

2 場 所：総務省第1会議室(10階)

3 出席者：

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

青山友紀、大山永昭、岡村久道、後藤玲子、政所利子、三友仁志、山口英

(2) 総務省

内藤総務副大臣、長谷川総務大臣政務官、桜井総合通信基盤局長、福岡電気通信事業部長、猿渡高度通信網振興課長

4 議事内容

(1) NTTプレゼンテーション

(2) IBMプレゼンテーション

(3) NECプレゼンテーション

(4) 意見交換

5 議事要旨

【議事に先立ち内藤副大臣からあいさつ】

○光ファイバインフラは、世界に先駆けて全国津々浦々で整備された。

○一方利活用は不十分。特にインセンティブの働きにくい行政や教育、医療などの分野では、自然に進むものではない。

○クラウドコンピューティング技術を使ってブロードバンドの利活用を促進したい。

○利活用が進まない理由は、システムを導入するためのコストがかかる、あるいは運用メンテナンスに様々な人やコストがかかるといったことである。クラウドという技術を使えば、システムを導入する手間やメンテナンスにかかる手間も無く、そもそも安価に利活用を進められる。

○クラウドという技術を使って、今までなかなかICT化が進んでこなかった行政、教育、医療等々様々な分野においてICTの利活用を一気に推し進めていきたい。

○実は次年度の概算要求レベルで5億円程度のクラウドコンピューティングの実証実験のための予算を盛り込んでいる。

○次年度から即実行できるというように研究会を設けて、それまでに精力的に議論しておく必要があるだろうということのみなさんにお集まりいただいた。

○できれば人口50万人程度の都市を4つくらい選んで、PDCAサイクルを回しながら向こう1年で、できるだけ良い行政クラウドというものを構築する実証実験ができないか。

○普通の公衆光ファイバ網を使うことを前提にセキュリティを高められないか。

○自治体が複数のベンダーからサービスを選べるような環境にしたい。

○概ね4回ないし5回くらい今年度中に精力的な議論を重ねたうえで、一定の中間報告的な結論を導き出していただきたい。

【NTT、IBM及びNECからプレゼンテーション】

【意見交換】

- 構成員
 - ▶ ユーザがそれぞれのクラウドの選択ができるということが必要。
 - ▶ そのためにはデータベースのインタフェースとかフォーマットとか、全国統一した標準化を指向した活動が必要。
 - ▶ 行政の業務の標準化、コストダウンなどを是非やって行くことが必要。

- 構成員
 - ▶ ベンダーのロックインをどう外すのか。
 - ▶ 自治体の中もそれぞれ細かいカスタマイズをしている割合も高いのではないか。

- 説明者
 - ▶ アプリのパッケージ化も進んでおり、我々も標準化をやっていきたいと思っている。
 - ▶ やはり出来るだけデータの統一化を図っていかないといけない。
 - ▶ 誰かが音頭を取って統一化・標準化をしないと、我々ベンダーの立場でやる訳にもいかない。

- 説明者
 - ▶ クラウドの本質は、仮想化、標準化、事業化。
 - ▶ 標準化というのはビジネスプロセスの標準化とそれを SaaS に標準化するということ。

- 内藤副大臣
 - ▶ 私たち国としても大きな責任を持っている。
 - ▶ 強力なリーダーシップがなかったために、各省バラバラ、それこそ文字コードの入力にしてもバラバラ。
 - ▶ このシステム化においては、一定限度中央集権的のがんと進めていかないといけないところがあるろうことかと思う。
 - ▶ 中央集権的で進めるべきところはどこなのか、デザインを描いてやっていきたい。

- 構成員
 - ▶ セキュリティが重要。

- ▶ クラウド事業者の中にはサーバ所在地を教えない、聞いてはならない、そういう契約条項を持っているものも一部あり問題だ。
 - ▶ 行政としては、むしろ守るべきセキュリティのミニマムをこれからは定めていくということを優先して頂くということで、より利活用が進むことを強力に実現することが重要。
- 構成員
- ▶ クラウド事業者はトラブルを起こしており、テキサス州では州業務が 13 日間止まった。
 - ▶ 障害発生時の免責事項と責任事項の明確化とか、そういうところがないまま突っ走っていくと問題。
 - ▶ クラウドでもビジブルにしないといけないところがたくさんある。
 - ▶ 災害対策や自分の責任範囲外にデータが出てしまった時の責任ルールが必要。
- 構成員
- ▶ ベンダー間でバラバラであった。国の旗振りでその問題を解決できればよい。
 - ▶ 都市に集中して効率化されて削減されたものがどういうふうに地方に配分されるのか。
- 構成員
- ▶ 日本の行政の情報化については、残念ながら世界に誇れるという取組ではないように思う。
- 構成員
- ▶ クラウドの活用、それから光 BB の活用が行政の内部システムの効率化を図るというところは大丈夫。
 - ▶ 一般利用者をクラウド運用された公共サービスに含んできて、一般利用者がそれにアクセスしたり、行政のサービスを受けるとなったときに、本当にその利用者がそれによってベネフィットを受けるのかどうか、そこが非常に重要だと思う。
 - ▶ 無線や携帯なども併せて可能性を検討すべき。
- 内藤副大臣
- ▶ 使う我々ユーザの視点を大事にしたものを作ることが重要。
 - ▶ 座長の三友教授と論点整理をし、12 月中旬頃に次回の検討会を開催したい。

以 上